

I C T 授業活用教育実践

対 象	特別支援 高等部	
教科・科目	美術	
単 元	オンライン鑑賞学習交流	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品紹介や作品鑑賞を通して、作品の見方を深く考え、発言する。 ・ 異校種の学校間交流を通して、多様な感じ方、考え方を知る。 ・ 視覚障害の理解啓発の機会とし、相互理解の気持ちを養う。 	
I C T 環境 (授業で使った機器)	Windows タブレット (Zoom 用端末) iPad 大型テレビ (50 インチ)	
利用したデジタル教材 (アプリ、サイトのアドレス、資料など)	Zoom (ビデオ通話アプリ) 写真アプリ (iPad 標準)	
授業での I C T の活用方法 と手順	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型テレビを使用し、交流校の学校紹介動画で事前学習を行った。 ・ Zoom 用端末を使用して連携機関とつなぎ、お互いの学校の生徒作品紹介や美術作品による鑑賞学習を実施した。 	
授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインでの交流に慣れるため、交流授業を複数回実施した。 ・ 映像だけでは視覚障害生徒は実感が湧かないため、触れることができる教材を準備した。 ・ 事前学習や振り返りで、意見や感想を言語化する練習を実施した。 ・ 校内にいながら、美術館作品を通じた作品交流を行った。 	
生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校紹介や作品紹介で、お互いの学校や生徒に関心をもつことができた。 ・ テレビの映像から作品の素材や特徴を発見することができた。 ・ 各校の生徒が意見を交換しながら鑑賞を深めることができた。 	

実践例

配当時間	学習の進め方	指導のポイント
導入 5分	始めの挨拶、本時の活動を確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校の生徒の声出し ・ 学芸員 (美術館) からの説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Zoomの接続確認 (マイク, スピーカー, テレビの音量確認) と室内の光の状況を調整し、生徒が見やすい環境を作る (カーテン, 室内電気等)。

展 開	40 分	① 学芸員から作品の紹介 ② (準備した) 作品1を紹介 ③ (準備した) 作品2を紹介 ・作品ごとに、作品を見て気付いたことを発表し、学校ごとに意見を交換する。 ・司会が、出された意見から、鑑賞のポイントになる点を話題にする。その話題ごとに各校の意見を確認する。	・作品の置いてある美術館の映像や作品に近づいた映像、離れた映像等で作品を伝える。 ・音、触った感じなど、いろいろな情報を伝える。 ・気付いたことを発言するように促す。 ・各校での発言を、ホワイトボード等にまとめる。
ま と め	5 分	本時の振り返り ・生徒同士で、まとめを行う。	・学芸員や教師から、意見交換の様子について良かった点や次回話題等を伝える。

評価

生 徒 に つ い て	生徒の興味・関心	交流授業を複数回行うことで、次回の授業への期待感をもって鑑賞交流を行うことができた。本物の作品を見たいという気持ちにつながることができた。
	生徒の理解	テレビの映像や触る教材、交流校の意見を聞いて作品の見方を広げたり、深めたりすることができた。事後学習で、iPad を使って拡大させながら確認するなど、授業では確認できなかった部分を補った。
	生徒の情報機器の活用度	Zoom 用端末と大型テレビを接続したことで、全員が大きな映像で作品鑑賞をすることができた。また、事後に iPad で鑑賞作品を拡大しながら詳細な部分を確認できた。
授 業 に つ い て	事前準備の難易度	三者でねらい等を共有し、Zoom の接続テストを繰り返し行い、スピーカーやマイク、ネットワーク状況を確認する必要がある。
	指導者にとっての授業展開の難易度	事前準備(事前学習、補助教材の作成、ICT機器の設定、連携機関との打ち合わせ等)を綿密に行うことで、交流当日にスムーズに行うことができる。
	授業の「ねらい」の設定は適切であったか	対話を通して鑑賞を深め、多様な考えを知りながら交流できた。また、視覚障害の有無を超えて鑑賞活動を通じた交流をすることができたため、「ねらい」は適切であった。
	効果的な指導方法であったか	多様な意見を聞いて鑑賞を深めることができ、少人数での学習グループが多い盲学校にとっては、貴重な鑑賞学習の機会になった。

<実践の感想及び反省点等>

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、校外学習の実施が困難な中、その代替として交流授業を実施した。本物の作品を鑑賞することはできない状況だったが、作品の映し方の工夫や発問によって、生徒同士の気付きが生まれ、鑑賞活動を深めることができた。また、本物の作品を鑑賞したいという興味・関心の高まりにつながった。また、生徒に司会、まとめ役などの役割分担をすることや、大きな声で、ゆっくり、はっきり、伝えること、相手の話をしっかり聞くことを大切にさせることで、コミュニケーション能力の向上につながった。

事前打ち合わせでは、授業のねらいや鑑賞作品の選定、当日の計画、授業展開の予想、教材準備など、ICT機器の設定は入念に行うことが大切であると感じた。

交流授業においては、障害の有無に関わらず、交流校とともに鑑賞プログラムの中で学びを深め合っている姿が印象的であった。